

2021年度 地域連携センタープロジェクト報告

公益財団法人青森学術文化振興財団の助成事業の実施報告を研究プロジェクトごとに記します。

「浅虫地域力の強化」事業～浅虫のWA(Wonderful Asamushi)～

本事業は、浅虫の魅力を多くの人々に知ってもらって住民との交流の輪を広げ、地域活性化を目指すものである。春夏期間は、浅虫の海で楽しめるアクティビティ商品「大学生限定SUP体験」と、夏休みの家族連れや大学生をターゲットにする「青森県民応援割引宿泊プラン」を企画・商品化した(4-Ride、南部屋・海扇閣、秋田屋により実施運営)。秋には「文化祭in浅虫(2021年10月30日)」と「浅虫の和(2021年10月31日)」のイベントをゆ～さ浅虫施設および温泉街で開催した。

「文化祭in浅虫」では、青森公立大生サークルと住民団体がパフォーマンスを披露して交流の場を作った。大学から8サークル(音響、ねぶた囃子、国際交流、ダンス、よさこい、アカペラ、吹奏楽、演劇)と、住民から1団体(浅虫琴の会)が出演し、まちづくり協議会有志の方々から芋煮会も開いて頂いた。一方、「浅虫の和」では、非日常的体験(抹茶体験、着物体験、昔の遊びラリー、水墨画パフォーマンス)を通して温泉街の古き良き和の魅力を再発見するきっかけを作った。新型コロナウイルス感染症の影響により団体活動やイベント開催が厳しく制限されるなか、感染対策を十分に実施し、学生主催イベントが企画通り開かれた。大勢の参加者(「文化祭in浅虫」281名、「浅虫の和」90名)が集まり、関係者および協力者から好評を頂いた。

3年間限定の本事業は今年度で終了するが、これまで積み重ねてきた成果を土台として今後も青森公立大生と浅虫住民との交流の輪を広げつつ、和の絆を深めていくことを願っている。

地域連携センター 兼任研究員 丁 圏鎮



「文化祭in浅虫」よさこいサークル



「浅虫の和」抹茶体験

青森県版中学校英語シャドーイング教材の開発事業

本事業の目的は、青森県版のシャドーイング用中学校英語教材を作成することです。シャドーイングとは、聞こえてくる音声を遅れないように即座に繰り返しながら声に出すトレーニングで、音声知覚段階で有効であるとされ、これを繰り返すことによって音韻知覚処理が自動化され、認知負荷が低くなると言われています。つまり、リスニング力が向上するという事です。またモデルの音を精聴しそれをまねるため、英語特有の発音やプロソディ(リズム、強勢、抑揚等)、スピードなども身に付きます。

今回シャドーイング教材を作成した理由は、日本人英語学習者の音声面の改善にあります。中学生の音読を聞くと、日本語の音で英語を読み、スピードが遅く、強勢やポーズの位置がでたらめでリズムが悪かったりします。これらの問題は日本語と英語の違いに起因します。日本語はSyllable-timed language、モーラ型言語といって、子音と母音が1セットになって音を作ります。例えば、「きもの」はki-mo-noで、音素は6個ですが音節は3つです。等時間隔で抑揚がなく、「はし：橋と箸」のように高低(ピッチ)で使い分けをします。これに対し英語は、Stress-timed languageで、強弱のストレス、緩急や間を取ったリズム、イントネーションが特徴です。このため日本人が英語の特徴を身に付けるには意識的なトレーニングが必要で、それをシャドーイングで行いたいと考えています。

本教材は10ユニットからなり、青森ねぶたや三内丸山遺跡、弘前城など、外国人に紹介したい魅力的な題材を選びました。各ユニットの1ページめには本文、表現と語彙の意味、意味のまとまりごとの日本語訳を、2ページめにはシャドーイング用記号付き本文を掲載しました。レベルは中学校3年生を想定しており、音声のスピードは120 wpm(1分間に120語)程度です。

本教材は青森県内の中学校に無償で配布する予定ですので、英語科の先生方にはぜひこれを活用して中学生の英語力の向上を図っていただきたいと思います。 地域連携センター 兼任研究員 丹藤 永也